

第3章 先史時代～諸石器時代の特徴

先史時代と文明化の初期

歴史家達はイエメン史を一般的に2分割している：イスラーム以前とイスラーム以後のイエメン史と、にである。この分類は一般に知られた歴史に関するものである。

先史時代として知られる上記以前の歴史（注1）に関しては、旧石器時代が何時終わり、新石器時代もしくはアラブ諸国の有史時代と呼ばれるものが何時始まったか、という時期の限定をするまでには、情報が少ない為に至っていない。即ちこの事に関しては包括的な科学的調査方法を通じた将来的な考古学研究を待たねばならないのである。しかし研究者達の元では、次の様な事が知られている。

（注1）「イエメン、その過去と現在」 Dr. アハマド・ファフリー著 P.5

かつてアラビア諸国の南部（イエメン）には旧石器時代に属する文化が存在しており、それは研究者達がアフリカ大陸及びアジア大陸のシリア、イラクで発見したものと非常に類似している。

1963年国連の付属機関であるユネスコは、2名の学者 J. ホークスとロナード・ウォール卿の「先史時代と文明化の初期」と題する書籍を出版した。そしてその書籍の3章をユスリー・アブドゥラッザーク・アルジャイハリー博士が翻訳し「新石器時代への光」（注2）と題する書籍で発刊している。

（注2）「新石器時代への光」序章 P.5

その中で次の様な引用要約文がある。有史以前の時代は次の諸時代を含む。それは旧石器時代、中石器時代（原石器時代）、新石器時代である。

旧石器時代の研究のためには、人類が自らの物語の第1章で演じた地理的舞台の研究がその準備として成されねばならない。表現を変えるならば、地表上に起こった気候の変遷と地形学的展開、そして特に第4紀もしくは鮮新世（第3紀最後の世、100万年～1000万年前の時代）—それは世界に存在する様々なフィヨルドの光景が最終的な形を取り始めた氷河紀のことであるが—において起こった様々な地質上の危機に関心を向けることを意味している。

諸石器時代の特徴

〔旧石器時代の特徴〕

- A) 人類はその時代、放浪と流浪のレベルで生活していた。
- B) 人類はその時代に、調理、灯火、そして厳しい寒さに対して暖をとったり、肉食獣や野獣から自分自身や子供達を守ったり、夜間に退避する洞窟を見つける為に火を使用することを知る。

〔中石器（原石器）時代の特徴〕

- A) 人類はその時代、半牧畜的生活を實踐する。
- B) 人類はその時代に、狩猟、食べ物を集めること等を学ぶ。

〔新石器時代の特徴〕

- A) その時代、土地と結びついた定住社会、農業、動物の家畜化と飼育が形成される。
- B) 人類はその時代に、斧やその他の石器を使用する。それに加えて大鎌やその他の石製の農耕器具、穀物用の石製の臼を使用する。
- C) 粘土や石で造った最初の建造物を建てる。これは土地と結びついた定住社会と農業の環境、また家族の結びつきの発展そして人類の諸社会間の協力が必要となってきた為であった。

そして新石器時代の特徴の中に平安という形容詞が挙げられる。またこの時代に関する主要な特徴の一つに陶器造りがある。そして葦やその他のものから作った籠や葦、キャラコ製の—これは絹の一種なのであるが—織物、金、銀、銅、象牙、宝石類で装飾された物品の所有等が挙げられる。そしてこの石器時代には、世界の人口の急激な増加が起こった。

前述の出典は、氷河期や旧石器時代の期間について規定がなされていない。しかし中石器（原石器）時代の期間について規定し、次の様に言っている（注3）。（原石器時代に生活していた漁師達は、氷河期の終わり、即ち11,000年前から存在していたと思われる。等々）

〔注3〕 「新石器時代への光」序章 P. 30

また新石器時代を定義し、次の様に語っている。

「間接的ではあるが新石器時代が完全な様相を呈し初めるのは少なくとも紀元前7000年」と考えられる（注4）。また、人類の知的能力の進歩や完全な人間のレベルまでの進化について語り、次の様に定義している（注5）。

〔注4〕 「新石器時代への光」序章 P. 28

〔注5〕 「新石器時代への光」序章 P. 20

「人類は約100万年もの間、狩猟により生活をしてきた。しかしその最後の4,000年間に、人類の理解力、想像力、技術力は確実に進歩した。この事態が、完全な人間へのレベルへと引き上げたのである。そしてこの時期、地表で進化し生息していた人類は、それ以外の動物と同様に、衣・食・住等、自然が提供してくれるもの全てに依存していた。

これ等の食糧は、生活を継続させていくには不十分で、稀少なものであったが、人類を辛うじて生き残らせた。提供される物には限りがあり、子供の数にも限りがあった。しかし社会における本質的変化は、人類が環境を支配し、環境を安定させることが出来た時以外には、起こり得なかった。その後、

幾つかの大きな所有物なるものが現れ、重要な施設を含む建物が建てられた。

定住化の結果は、子供達が親の庇護の元に暮らすことを可能にした。このため、子供達が親の仕事を継承することが可能となり、またその数も増え始めた」。

前述の2人の学者の原石器時代と新石器時代の定義にもかかわらず、一部の専門学者達は、有史以前のこの2時代とか、それ以外の時代とか、どの時代の時期についても彼等2人の意見に同意しなかった。

しかしこの2人の学者が石器時代の中・新期について述べた定義は、予期される真実に近いものであろう。つまりその真実を明確にすることは、世界の様々な地点で、専門学者達を通して行われた極めて細部にわたる努力と包括的科学調査において、これら遺跡への14番炭素（C14）分析法に依拠するものであった。

にもかかわらず石器時代中のどの時代でも、その時期の定義というのは、場所・地域によって異なるものであり、それは色々な地質学的時代に地表に発生した自然地理学的状態そして気象状態や環境の相違に起因する。